

『きれいな海・多様な生物が生息できる環境を目指して』

これまでの活動：平成25年度～平成28年度

【平成25年度】

平成26年3月

◎実験場の設置

カキ礁であった自動車護岸沿いの5m×7mの水域に厚さ30cm程の覆砂を行い、水辺の生物の生息環境を確保するための「**実験場**」を設置しました。

◎生物生息状況及び水質調査の実施【会員参加】

→ 生物確認種類(目視観測)：14種類(マガキ、タマキビ、イワフジツボ、スジハゼなど)

【平成26年度】

平成26年8月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

→ 生物確認種類(目視観測)：28種類(アサリの稚貝、クロダイ、イシガニ、マハゼなど)

平成26年10月

◎アマモの種まき及び苗付けの実施【会員参加】

実験場の生物生息状況をさらに改善するため、水質浄化、生物生息環境の改善が期待できる「アマモ」の播種・移植を、地区内の会員企業・団体が参加し実施しました。

アマモの播種：320粒の種をプランターにまき設置しました

アマモの移植：32株を**地植えて移植**しました

平成26年12月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

→ アマモの状態：順調に育成。10月に移植した株は約3分1の12株が残存し、種子は59株が発芽し、最大葉長は21cmになりました。

→ 生物確認種類(目視観測)：23種類(サルボウガイ、ホンビノスガイ、スジハゼなど)

平成27年3月

◎生物生息状況及び水質調査の実施【会員参加】

→ アマモの状態：昨年10月に移植したアマモは2株に減少していました。播種したアマモは、15株に減少していましたが最大葉長は28cmに成長しました。

→ 生物確認種類(目視観測)：24種類(タカノケフサイソガニ、アラムシロ等)

覆砂前の海底の様子
一面カキ礁



覆砂の様子 (H26.年3月)



覆砂後の現地の様子



会員参加による播種・移植の様子
(H26年10月)



【平成27年度】

平成27年5月

◎アマモの苗付けの実施【会員参加】

新たに21株のアマモをプランターに移植しました。

⇒ アマモの状態：昨年10月に移植したアマモは1株のみでしたが、最大全長は98cmに成長し、**花枝(種子を形成する枝)**を形成していました。また、播種したアマモは24株、最大全長は63cmに成長していました。

平成27年8月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

⇒ アマモの状態：昨年10月に播種・移植したアマモも、3か月前の5月に移植したアマモも残念ながら全て消失していました。

⇒ 生物確認種類(目視観測)：35種類(アサリ成貝、ベニツケギンポ、アミメハギ、ウロハゼ、マテガイ、チチュウカイミドリガニ 等)

平成27年10月

◎アマモの種まき及び苗付けの実施【会員参加】

地区内の企業・団体が参加して、アマモの播種・移植を行いました。

アマモの播種：500粒の種をプランターにまき、設置しました

アマモの移植：紙粘土を支持材として、約30株を地植え、約15株をプランターで移植しました

平成27年12月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

⇒ アマモの状態：10月に移植したアマモは、地植えした株は消失してしまいましたが、プランターに移植したアマモは、平均株数も2株から4株に増え、順調に育成。播種したアマモは72株発芽しました。最大全長は18cmに成長しました。

⇒ 生物確認種類(目視観測)：26種類(サルボウガイ、ホンビノスガイ、スジハゼなど)

平成28年3月

◎生物生息状況及び水質調査の実施【会員参加】

⇒ アマモの状態：10月にプランターに移植したアマモは、平均株数は8株に増え、平均全長も82cmになりました。播種したアマモは85株が発芽し、最大全長は48cmに成長しました。さらに、花枝(種子を形成する枝)も形成していました。

⇒ 生物確認種類(目視観測)：18種類(チチブの仲間等)

会員参加による播種・移植の様子 (H27年10月)

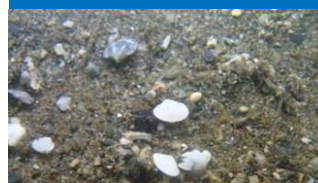


播種・移植したアマモの様子 播種(写真左)・移植[地植え](写真右)



アマモの花枝(かし)
種子植物であるアマモが種子を形成する株です。この枝を流出して増やします。

こんな生物が観測されました！(生物目視観察) (平成26・27年度)



アサリの稚貝(H26年8月/左)
成貝(H27年8月/右)



マハゼ



クロダイ



ベニツケギンポ



マテガイ



アミメハギ



ウロハゼ

平成28年7月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

⇒ アマモの状態: 昨年10月に移植したアマモは、3月と比較して平均株数は8株から7株に減少し、平均全長も82cmから74cmに減少しました。全長が短くなった理由は、前回、長く伸びていた花枝(種子ができる株)が種子を形成した後に流出したためです。また、播種したアマモ種子は、全てのプランターで発芽し、3月と比較して総株数は85株から90株に増加し、最大全長も48cmから82cmに成長しました。

⇒ 生物確認種類(目視観測): ハゼ科の稚魚の群れ等

平成28年8月

◎生物生息状況及び水質調査の実施

⇒ アマモの状態: 昨年10月に播種・移植したアマモも全長や株数は7月と比較して減少しましたが、移植・播種から10ヶ月経過した8月にアマモの生育を初めて確認できました。

⇒ 生物確認種類(目視観測): 29種類(ミル/初出現、トサカギンポ/初出現、アミメハギ群れ 等)

平成28年10月

◎アマモの播種(種まき)及び移植(苗え付け)の実施【会員参加】

⇒ アマモの状態: 昨年10月に移植・播種したアマモは、1年後の平成28年10月13日にすべて消失していました。また、地区内の企業・団体が参加して、新たにアマモの播種・移植を行いました。播種・移植各3つのプランターのうち1つは砂の流失対策とし粒径の大きい川砂を混ぜたプランターを設置しました。

アマモの播種: 500粒の種をプランターにまき設置しました。

アマモの移植: 紙粘土を支持材とした約12株をプランターに移植しました。

平成29年3月

◎生物生息状況及び水質調査の実施【会員参加】

⇒ アマモの状態: 10月の設置時と比較して平均株数は1.9株から3.0株に増加し、平均全長も50cmから62cmに増加しました。さらに、花枝(種子を形成する枝)も形成していました。

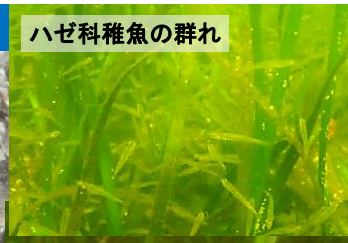
⇒ 生物確認種類(目視観測): 28種類、昨年3月調査の18種類と比較すると10種類増加しました。(クロシタナシウミウシ/初出現、マナマコ/初出現、海藻類 等)

こんな生物も新出現しました! (平成28年度)

ハゼ科稚魚の群れ

トサカギンポ

クロシタナシウミウシ



ミル(海藻)

マナマコ



アミメハギの群れ



播種(写真左)・移植(写真右)したアマモ



播種したアマモ(写真)



移植したアマモ(写真左)、花枝の部分(写真右)